



2006年2月13日

ロールス・ロイス社、Trent 1000 エンジンの完成式典を開催 全日空とダービー工場において

【英国 2006 年 2 月 9 日】 民間航空、防衛航空、船舶、エネルギー各分野の世界市場において事業展開するロールス・ロイス社（本社：英国ロンドン、CEO:サー・ジョン・ローズ、以下「ロールス・ロイス」）は、全日本空輸（本社：東京都港区、代表取締役社長 山元峯生、以下「ANA」）の関係者を招き、ANA が 2008 年に就航を予定しているボーイング 787 型機に搭載されるロールス・ロイス製最新エンジン Trent 1000 の完成記念式典を、英国のダービー工場施設内で開催しました。

今後、Trent 1000 は、ダービー工場施設内のテストベッドで初運転が行われ、2007 年第 1 四半期にはフライングテストベッドにて初飛行試験が行われる予定です。

このエンジンの最後のボルトを締める「ファイナル・ボルト」式典に出席した、ANA の整備本部技術部長犬飼賢一氏は、次のように述べています。「Trent 1000 の導入は、次世代の空の旅に向けた新たなエンジンの到来を示しています。Trent 1000 は、現在、航空会社が直面する課題に応えた設計となっています。信頼性と環境への配慮に重点を置くと同時に、燃料効率や経済的課題に対してトータルに改善したい、という私共のニーズに応じてくれるものなのです。この素晴らしい新エンジンを導入できることを大変光栄に思います」。

また、ロールス・ロイスのボーイング・プログラム ディレクター、ドミニク・ホーウッドは、次のように述べています。「Trent 1000 エンジンの開発を予定通り達成できましたのは、ひとえに、お客様ならびに社内の緊密な連携があつての賜物です。Trent 1000 は、全日空に選定されて以降、本日、ご出席頂いた犬飼氏をはじめ全日空の方々に支えられて、記念すべきこの日を迎えることができました。これを祝うとともに心から感謝を申し上げます」。

ANA は、2004 年 10 月に、ボーイング 787 型機への Trent 1000 の装備を決定しています。これにより、Trent 1000 は、今後の航空機開発プログラムにおける主要エンジンとしての地位を確立しました。同機は、2008 年の夏から就航の予定で、ANA は Trent 1000 を搭載したボーイング 787 型機を運行する初の航空会社となります。

以上

ご参考

1. 川崎重工業および三菱重工業は、Trent 1000プロジェクトの投資総額の15%比率（両社合計）で、リスク収益分担パートナーとして同プロジェクトに参画しています。川崎重工業は中圧コンプレッサー、三菱重工業は燃焼器および低压タービンプレードを製造しています。
2. Trent 1000 は、2007年の第1四半期にロールス・ロイスのフライングテストベッドであるボーイング747型機に搭載され、初飛行が行われ、同年、ボーイング787型機の初フライト時期に先立ち、夏には、耐空性に対する認証を得る予定です。

3. Trent 1000 は、ニュージーランド航空、ノースウェスト航空、LOTポーランド航空、LCAL社にでも選定されています。
4. Trent 1000 は、トレント・シリーズで5番目にあたるエンジンです。最初のトレント・シリーズは1995年に運行がスタートしています。Trent 1000の運行が開始される頃には、トレント・シリーズ製品の累積飛行時間は約3,000万時間となります。

写真、画像に関して

1. フライングテストベッドの写真は、ロールス・ロイスのウェブサイト上の本ニュースリリースからダウンロードできます。ロールス・ロイスのウェブサイトは、こちらからご覧いただけます。
www.rolls-royce.com/media/search.jsp
2. 記事に関するボーイングのBロール・ビデオはwww.thenewsmarket.com/rolls-royceから入手可能です。登録およびメディアへのアクセスは無料です。サイトからMPEG2ファイルのダウンロードが可能です。また、ベータSPテープの注文も可能です。